

## 受精卵移植によるトウキョウX維持群再生と生産現場への応用

### 【研究概要】

十分な性成熟が認められる 10 ヶ月齢以上の供胚豚を用い、人工授精の 6 日後に食肉処理場または青梅庁舎内へと畜し、子宮内を灌流して受精卵を採取したところ、6 ヶ月齢の供胚豚よりも採卵個数は増加した。また、供胚豚の発情同期化ではプロスタグランジン  $F_{2\alpha}$  の 2 回投与が 4 回投与に比べ、採卵個数に差は見られなかったが、胚盤胞率は高かった。採卵処理までに 2 時間以上の差が生じる食肉処理場と青梅庁舎内における作業だが、採取した受精卵のガラス化保存融解後 48 時間までの脱出胚盤胞率は、これら採卵処理までの時間による差はみられなかった。